東洋医学

健康歳時記

四国医療専門学校教師
大麻 陽子

米国視察⑤

前田先生が目指す「日本鍼灸」

アメリカで活躍されている鍼灸師、前田篤希先生(47)を紹介します。前田先生には、私がアメリカで美容鍼のワークショップをした際、すばらしい通訳で盛り上げて頂きました。

前田先生はお父さまが西洋医学の開業医、お母さまは薬剤師というご家庭にお育ちで、ご実家が外国人留学生のホストファミリーを請け負っていたこともあり、外国が身近に感じられる環境にあったようです。

ご両親から留学を勧められ、16歳の時にペンシルベニア州の高校に留学。田舎の学校で日本人はひとりもいない、いきなりすべて英語という環境で、それはそれは大変だったそうです。

しかし、幼いころからやっていた得意なサッカーとテニスでチームに入って活躍するようになり、段々認められるようになりました。半年後には英語で口げんかができるほど英語も上達！高校を卒業後、サンフランシスコの大学でインターナショナルビジネスを専攻しました。

そんな時、追突事故に遭い、自力で起き上がれない程のひどいむち打ち症になってしまったのです。フルコースの西洋医学の治療を受けますが、なかなか効果が出ない。そんな時、知人に中国人の鍼灸師を紹介され、耳のツボから「首と腰が悪い」とピタリと言い当てられ、1回の治療でスッと起きられるようになって驚いたそうです。

それから東洋医学の神秘に興味が出て、東洋医学書を買い、読みあさる毎日…。その中で「天人合一説」という東洋医学の基本概念を知り、深く感銘を受け、東洋医学の道を目指すことになりました。

「きちんと学ぶには母国語で深く理解することが大切だよ」とアドバイスを受けた前田先生は、日本に帰国し、東京衛生学園専門学校に入学。東洋医学を学び、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を取得しました。

卒業後、総合病院のリハビリテーション科の中の東洋医学部門で6年勤務。多忙を極めながらも、時間を見つけて脳卒中後遺症の治療法を学び、そこで中医学と出合います。中医学は鍼治療だけでなく、漢方薬治療も組み合わせて行います。

残念ながら日本の鍼灸師は漢方薬を処方できません。鍼と漢方薬を組み合わせた治療スタイルを目指す前田先生はカリフォルニア州なら自分の目指す治療ができると分かり、92年に再び渡米します。

カリフォルニア州の資格を取得後、アメリカで東洋医学の教育がどのように行われているか知りたかった前田先生は、サンタモニカのエンペラー東洋医学大学に入学。修士と資格を取得後、学校からの要請で5年間講師を務めます。そして、いよいよ94年にクリニックを開業しました。

前田先生は「『これが日本鍼灸だ！』というものを確立させ、日本鍼灸のグローバル化を目指したい！」とおっしゃいます。前田先生が「日本鍼灸」を日本に逆輸入してくださる日は近いかも知れません。